

薫 嶺



No.137
平成28(2016)年2月

一年間を振り返って



PTA会長

会田 清文

神様から命を授かり、父・母を通じてこの世に生まれました。魂は、初め宝石のように輝いていたはずなのに、歳を重ねるにつれてくすんで行き、今や原型をとどめないかと思っていた頃、PTA会長をやつてくれないかとお声をかけて頂きました。

神様に命をお返しし、魂が神様の元に帰る時、少しでも綺麗な姿で戻りたい…。魂を磨くこと、それは「他のために生きること」と思つて一年間やつて参りました。

未熟な私を、四人の副会長さんはじめ、各委員会の委員長さん、委員の皆様、PTA会員の皆様、また校長・教頭先生はじめ多くの先生方に支えて頂き、無事一年を終えることができました。

とは言え、この原稿を書いている十二月中旬現在、まだやり残したことが沢山あります。

新規事業である『きずなネット』の登録を進めていますが、まだ運用開始に至っていません。また、中庭改修もなかなか進まず、三月ようやく完成する見通しです。来年度PTA本会役員候補の皆様も、ようやく決まつたばかりです。

本会役員のお願いをしている時思いました。苦勞しながらお願いし、それぞれの皆さんが決心をされ、「いいですよ。やりますよ。」と言つて頂いた時、私は心から「ありがとうございます。」と申し上げました。お父さん、お母さんがすごくかっこよく見える瞬間です。

一年かけて、「感謝」することの素晴らしさを教えて頂きました。私から皆様に犬したことは出来ませんでした。皆様は私に大きなことをして頂きました。生涯忘れません。

心から「ありがとうございます。」と申し上げます。

中庭改修

南校舎と中校舎の間にある、あまり使われていなかった中庭を憩いの場にしようと、PTAの予算を利用して一月から改修がはじまりました。暖い季節には休み時間に息抜きをしたり、お昼休みにお弁当を食べる子どもたちの姿が見られるようになるでしょう。

(前号裏表紙に改修前の写真あり)



何十年か前に先輩方が手作りした枯山水風の築山や元々あった植木はそのままに、素敵なくつろぎの場所になりつつあります。

文化・教養委員長

西村 りか

文化・教養委員会の役員を引き受ける事になり、正直荷が重すぎると不安な気持ちでいっぱいだった時から、早いもので全ての行事を終え、振り返る時期になってきました。

文化・教養委員会の活動は、毎年恒例のカルチャー講座とPTA合唱の二つでした。

どちらも今までの役員の皆様の残して下さった資料をもとに、先生方のご指導のもと、委員会の皆様の積極的な協力のおかげで、何とか充実した活動をする事が出来たのではないかと思います。

何もわからず、手探り状態で進めてきた委員会活動ですが、ひとつひとつ進む度に、様々な発見や活力を頂いた気がしております。一年間、大変お世話になり、ありがとうございます。

施設・厚生委員長

井口 知子

施設・厚生委員会の看板事業、春と秋の『クリンアップ作戦!!』に、実に多くの皆さんが仕事・部活を中断し、または他の予定より優先して参加してくださいました。

道具を手にした面々の、なんと頼もしいことか。そしてその仕事のなんと丁寧で美しいことか。:

「伊那北高校をきれいにしたい。」

今年度のPTAスローガン「がんばるよ 君のために 君といっしょに」そのままの姿がそこにありました。

今後、保護者・先生・生徒が同じ目的と立場で協働できるこの事業を通じて、ともに清々しい達成感を味わってほしいと願います。

ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

生活指導委員長

中島 住敏

五月の委員会に始まり、六月の地区打合せ会、各事業における駐車場での誘導作業、強歩大会の交通指導、年二回の街頭指導と地区ごと委員の皆様に従事していただきました。

一年間、委員の皆様や担当の先生方に助けていただき、無事に予定されていた事業を終えることが出来ました。感謝申し上げます。

進学するにつれ、学校に行き子どもたちの姿を見る機会が減りますが、PTA事業に参加させていただくことにより、学校での生活を感ずることが出来たり、先生方と話す機会が出来たり、会員の方と交流することが出来る事、得るものが多くありました。役を受けることには躊躇しますが、積極的に手を上げてみてはいかがでしょうか。

広報委員長

白澤 準一

四月に委員長という大役を仰せつかり、私自身「薫嶺」とは何の為に作るのでしょうか。ここからのスタートでした。

PTAの皆様に興味をもって読んでもらえるよう、委員の方々、担当の先生方とアイデアを出し合い、無事「薫嶺一三六号・一三七号」を発行する事が出来ました。

いろいろな行事やPTA活動の取材・編集等で、忙しい時間の中活動して頂いた委員の方々や担当の先生、役員の皆様に感謝申し上げます。貴重な経験をさせて頂き有難うございました。

PTA担当職員

西山 高志

埋橋 元

会議から多彩な行事に至るまで、様々なPTA活動の一つ一つに保護者の皆さんの思い熱意を感じました。「保護者と教員はnatural enemy(天敵)である」という言い方も、逆に、子どもを中心に大人の交流と協力の渦が作られ広がることを前提にしていると思われま。PTA活動に対する各会員のスタンスは違えども、ご苦労された役員のみなさんをはじめとする本校PTA全体としての力が発揮された一年であったと感謝します。改めて、保護者の皆さんの取り組みに対し敬意と感謝の気持ちを述べさせていただきます。



合唱コンクール

9月11日(金)



ひとりひとりが
どんなにがんばっても
きれいなハーモニーが
うまれるとは限らない。
でも、ひとりひとりが
がんばらなければ、
決して素敵なハーモニーが
うまれることはない。



感動をありがとう!

ひとりひとりが
輝いていた時間 ³

金賞

3年A組



～喜びの声～

クラス一丸となり、素晴らしい合唱を創り上げることができました。高校生活最高の思い出です。

(3A 加藤駿君)

おめでとう!

金賞: 3年A組「未来への決意」より人間

銀賞: 3年C組「A Little Jazz Mass」よりGloria
3年D組「光と風をつれて」より はじまり

銅賞: 2年A組 3年E組 3年F組

特別賞: 1年A組 1年F組 2年B組

ベストコンダクター: 加藤 駿 (3年A組)

ベストピアニスト: 中谷 美月 (3年C組)



個性あふれる

ひとりひとりの声を
気持ちを 心を

ひとつにまとめるのは容易なことではない。
それをまとめていくのは、



コンダクター、ピアニスト、
そしてクラスの仲間全員だ。

このコンクールを通して、

一体、何人の名コンダクターが、名ピアニストが、

そして、熱い気持ちを持った仲間が生まれたことだろう。



耳に届く歌声に、指揮者を見つめる眼差しに、そして全身から感じられる情熱とひたむきさに、胸が熱くなる。私たちの中で眠っていた懐かしい何かが目を覚ます。今、この時を楽しんでほしい。熱く突き進んでほしい。素晴らしい仲間とともに…。



10月1日(木)

第50回伊那北高等学校強歩大会

男子32.9km、女子27.4km

あいにくの曇り空の中、元気よくスタート。ゴール目指しレッゴー



校長先生挨拶



宣誓!



用意!



スタート!



走れ~~!



雨の中笑顔で



疲れたな...





閉門にて



PTAによる豚汁作り



ゴールまで後少し!



1位

男子1位
石倉大輔君(2-F)



2位

男子2位
那須野 亨君(3-B)



3位

男子3位
岡田 稜君(2-E)



1位

女子1位
依田怜美さん(2-D)



2位

女子2位
木村優水さん(2-B)



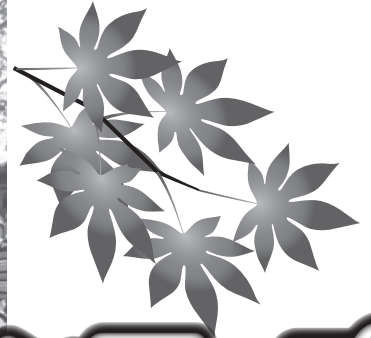
3位

女子3位
長谷部楓子さん(1-E)

8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位	女子上位者	8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位	男子上位者
牛山 真波	宮澤 みよ	松崎 美優	熊合 幸花	佐久間 優乃	長谷部 楓子	木村 優水	依田 怜美	依田 怜美	大澤 昂輝	藤井 康仁	植田 貴大	宮下 和也	矢澤 雄太	岡田 稜	那須野 亨	石倉 大輔	石倉 大輔
2時間21分34秒	2時間17分23秒	2時間16分30秒	2時間14分38秒	2時間14分28秒	2時間14分06秒	2時間14分05秒	2時間14分05秒	2時間29分20秒	2時間29分01秒	2時間22分23秒	2時間18分04秒	2時間17分04秒	2時間14分44秒	2時間10分25秒	2時間07分23秒	2時間07分23秒	2時間07分23秒
(1B)	(1C)	(1A)	(1C)	(1C)	(1E)	(2B)	(2D)	(2C)	(2E)	(1E)	(1F)	(3C)	(2E)	(3B)	(2F)	(2F)	

10月4日(日)

秋季 クリーンアップ



大体育館裏の竹やぶ



側溝の土砂あげは重労働



After



学校をきれいにしました



10月4日に行われた「秋のクリーンアップ作戦」。天候にも恵まれ、保護者139名、吹奏楽部を中心とした生徒55名、職員9名が参加し、協力して学校をきれいにしました。



ちょっとひと休み
みんなでお茶を
いただきました

before

空っぽのコンテナが



駐輪場前



生徒も
がんばりました



2つとも山盛り



クロスペンアカデミー 秋期講演会

演題 「地球の救い方」

講師 月尾 嘉男 博士

秋期講演会として、東京大学名誉教授の月尾嘉男博士の講演会を伊那文化会館大ホールにて開催しました。伊那北生徒全員と保護者・同窓生の方も多数参加されました。

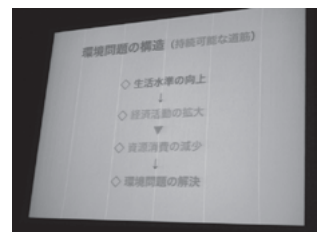
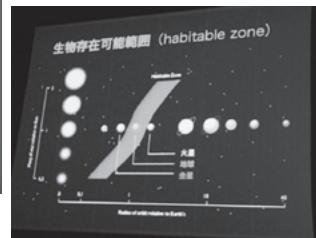


～講師紹介～

1942年 愛知県生まれ
1965年 東京大学工学部卒業
1971年 東京大学工学系大学院博士課程修了
1972年 都市システム研究所所長
1978年 工学博士(東京大学)

名古屋大学工学部教授、東京大学工学部教授、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、総務省総務審議官などを経て、2003年より東京大学名誉教授
専門はメディア政策

地域振興と環境保護の為地域の人々と釧路湿原塾、信州仰山塾、瀬戸内海塾などを主宰



講演内容

農業革命、産業革命により、私たちは多くの恩恵を受けた一方、地球の環境が悪化したことが問題になっている。環境問題は地球規模で政治問題として解決する分野もあるが、地域の人々の地道な活動でしか解決できない分野もある。そこで、環境問題の全体の概要、原因の究明、私たちが今できる解決策を、節約の精神(節約技術)、伝統の再考などの観点から示していただきました。その後2名の生徒から積極的な質問がありました。



生徒の感想

農業、工業の発展にともなって、森林の減少、水の需要の増加、エネルギー使用の増加、人口増加など様々な問題が起きているのは知っていましたが、諸悪の根源は人間であり、世界には12億人の人々が飢えていて、数億人の人々が水を飲めず、多くの動植物の絶滅や、鉱物の減少などの問題も起きているのという事はあまり実感がありませんでした。私たちはこの先、二酸化炭素を減らすために、地元の旬のものを食べたり、地元のものを使ったり、伝統を再考したり、江戸時代の5Rを再現していくことは大切だと思いました。そして、日本人独特の「縮小する能力」を活用して奇跡の惑星である地球を守っていきたいです。(2年生)



Memo

薫ヶ丘クロスペンアカデミー (Cross Pen Academy)

平成15(2003)年度、学校5日制に伴い、土曜日の有効活用の一つとして「薫ヶ丘クロスペンアカデミー」が、同窓会・PTA・学校の共催により始まる。学問(知)へのインセンティブをもたらす事、及び学力の向上を図るための講座・講習・研修を実施している。

大学入試の現状と今なすべきこと

講師 佐藤一郎 先生 河合塾新宿校校舎長



これから大学入試までの440日余りをどのように過ごすべきか。2学年の生徒と保護者を対象に、昨年引き続き河合塾の佐藤先生をお招きし、講演会が開催されました。

どのように社会貢献に関わっている自分が幸せなのか。「医者になりたい」ではなく、どんな医者になりたいかを考えてほしい。人生の目的を考えると目標(志望校)がしぼりやすくなるのではないかと。大学はたかが通過点。その先のために必死にやればい

いだけ。目的は世界視野で考える。考えられなければ新聞を読んでみる。新聞の一面から最後まで読み、気になった記事を3つ記録して2週間続ければ、自分の興味関心がどこにあるかわかるかもしれない。大学を選ばなければ大学には入れる今の世の中、大学は選んで入ろう！ 高2の秋の今、本気でがむしゃらにやり始めた人が受験生だ。

大学受験に大切な4つのK

1 継続

学習時間と成果の関係は、「 $y=x$ 」のグラフではなく、「 $y=x^2$ 」のグラフ。受験勉強は、現役生は最後の最後まで伸びる。

2 基本・基盤

大学入試は60~70%できれば合格できる。だから教科書を完全に理解すればOK。理解しているということは、わからない人に説明できるということ。

3 緊張感

集中力を保てるようにしよう。1時間で冷蔵庫を開けるのはダメ。

4 教養

高校でやっていることは、教養のベースになっている。社会に興味・関心をもつことや、「なんで?」という姿勢が大切。大学入試は、18年間をどう生きてきて、これからどう生きたいかが問われている。



成功する保護者の姿…… 我が子のしつけはガンガンしてOK。進路や勉強に関してはちょっと引いて、頭ごなしに文句を言わない。(親戚の子だと思って…)

生徒の皆さんへ…… 一生懸命勉強している姿勢を、親に見せよう。困ったことは周りの人に相談しよう。



PTS (Parent Teacher Student)

昭和45(1970)年以降の伝統行事である保護者、先生、生徒三者による合同活動。ここ10年来は1学年が講演会の後、クラスでテーマを決めてPTSにより意見交換会、2・3学年は進路講演会が生徒とその保護者それぞれで行われている。

活躍する伊那北生

陸上部 北信越新人大会(石川県)



2D 赤羽 達也 男子走り高跳び

10月31日、私は高校へ入学してから初めての北信越大会へ出場することが出来ました。ずっと夢見てきた大舞台だったので緊張してしまい、思うように体を動かすことが出来ませんでした。目標は入賞することでしたが、健闘もむなしく、表彰台を逃し記録もベストにも遠く及ばない結果となってしまいました。この大会を経て、自分の実力不足を痛感し、また自分の課題を見つけることが出来ました。その課題をこれからの練習の日々の中で克服して、来年こそ万全の状態で臨み、インターハイへの出場権を勝ち取りたいと思います。

2B 鈴木みのり 女子走り高跳び

私は、北信越大会に走り高跳びで出場し、優勝することができました。県大会では、自分の跳躍ができず、2位という残念な結果で終わってしまったので、絶対優勝する!という気持ちで競技に臨みました。ライバルの子たちの調子が上がっていなかったのもありましたが、私は今シーズンで一番良い助走・踏切・クリアランスができたので、とても楽しい競技でした。

シーズンの最終試技としては、良い形で終われましたが、来シーズンはインターハイで決勝に残ることが目標なので、この冬多くの課題を克服し、もっと高いレベルで戦える選手になります!!

2C 前田 貴凜 男子棒高跳び

この大会は僕にとって1年を締め括るとても意義のある大会であり、またもう出場することの出来ない貴重な大会でした。悔いの残らないように挑み、心地好い緊張感、程よい高揚を僕は味わいました。結果は納得のいくものではなかったのですが、シーズンベストを出すことが出来ました。来年に繋がる良い大会になりました。

2F 石倉 大輔 男子5000m

今年度の北信越新人戦に参加するにあたって、僕は、自己ベストを更新することを目標としていました。本番では予想しなかったレース展開となってしまい、結果として、自己ベスト更新はおろか、順位も4位という本意なものに終わってしまいました。なので、来年の総体では、今回の反省をもとに、よりよい結果を出せるよう尽力したいと思います。

2015紀の国わかやま国体(和歌山県)



3C 西村 千明 女子走り幅跳び

昨年に引き続き今年も国体に出場させていただきました。今年で三度目の国体となり、今まで結果を残せなかった分、絶対に結果を出そうという気持ちで練習から頑張ってきました。結果、入賞はできましたが記録的にはあまり納得のいくものではなく、悔しい気持ちも大きかったです。しかし、応援していただいた方々に入賞という形で恩返しできて良かったです。支えていただいたすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

テニス部 北信越新人大会(新潟県)



2C 中坪 夏希(マネージャー)

10月16日、私は選手とともに北信越大会の開催地である新潟県へ向かいました。

今年の硬式テニス部は故障する人が多く部員全員がなかなか揃わず、この新人大会に出場出来ない人が出たりするハプニングもありましたが、皆が互いを補って得た8つの勝利、そして19人全員揃うことが出来た県大会を私は絶対忘れないと思います。

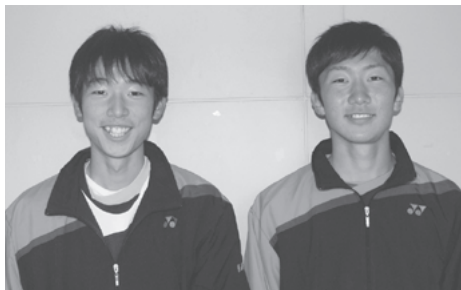
そして北信越大会、出場校で唯一の公立校であった伊那北は大健闘しましたが惜しくも一回戦で負けてしまいました。ですが最後まで試合を諦めず、仲間を一生懸命に応援する選手はとてまかつ良かったです。

私は応援することしか出来なかったけれど心に残る経験をさせてくれた皆、本当にありがとう。

団体チーム

- 野中 真陽(1F)
- 野澤 僚真(1A)
- 福澤 和志(2A)
- 清水 啓介(1A)
- 伊藤 拓哉(2F)
- 小林 直斗(2B)
- 青木 貴志(2E)
- 坂田景太郎(1C)
- 清水 充博(2C)

ソフトテニス部 北信越新人大会(石川県)



2A 漆戸 大・仁科 慶彦

私たちは石川県小松市で行われる北信越高等学校ソフトテニス選抜インドア大会の個人戦に出場します。他県の人たちと試合をするので初戦から厳しい戦いとなると思いますが、自分を信じ、そしてペアを信じて二人で一本を取っていき、常に強気でプレーをしてきたいと思います。みなさんの応援をよろしく願います。



フェンシング部

全日本フェンシング選手権大会・サーブル(東京都)

2C 村松 佐恵

今回、全日本という大きな舞台で戦う機会を得た事に非常に驚きました。レベルが何段も上の選手たちと闘うので今までは違った緊張を感じています。正直怖じ気づくこともあると思いますが、こんな機会は滅多に無いので、沢山の人の見て自分が生かせることはどんどん吸収していきたいです。勇気を持って挑戦する心を忘れずに頑張りたいです。



全国カデ・エペフェンシング選手権大会 全国ジュニアエペ選手権大会(長野県)

2C 桐生 卓人 2C 村松 佐恵 1B 池上 瑛世 1C 宮下 翔多 1D 鈴木 太智

結果はあまりよくありませんでしたが、次につながる収穫もたくさんあった大会だったので、弱点を克服して、次の大会でいい成績を残せるようにがんばっていきます。



ラグビー部



女子ラグビーフットボール選手権(東京都) 女子7人制エキシビジョンマッチ(東京都) 女子エキシビジョンマッチ15人制ゲーム(大阪府)

2C 白鳥里菜子

選抜に選ばれたときは、本当に嬉しかったです。その反面、今までの大会以上に緊張している自分がいました。今大会は、かなりレベルの高いチームと試合をします。不安な部分が多いですが、試合後に後悔しないためにも、臆することなく、自分の精一杯の力を出し切りたいです。また、こうして選抜に選ばれたのは応援してくださる全ての方のおかげです。本当にありがとうございます。感謝を忘れず、全ての試合で勝てるように頑張ります。

囲碁部



北信越新人大会(石川県)

1C 湯澤 史弥

この大会では、自分のベストが出せるようにがんばりたいです。また、勝ち負けも大切ですが、いい囲碁を、そして楽しみながら打ちたいです!

2E 進藤 勇也

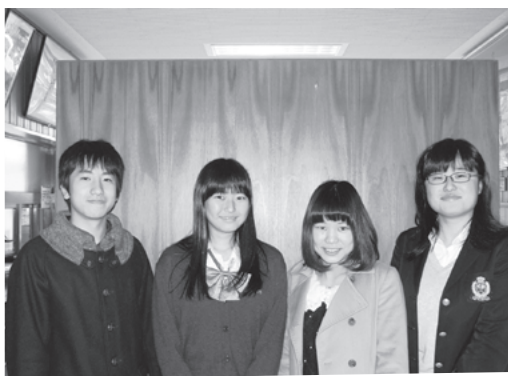
碁を打つ時に特に気にかけているのは、形の美しさです。囲碁というのは形が良ければ強い形であるという競技なので、石ごとの連携や全体のバランスを考えています。北信越大会では、対局相手から様々な打ち方、考え方を学びながら自身のこれから囲碁の形を作っていきたいです。

2B 浦野ひなた

私は今回、女子個人戦で北信越で進むことになりました。部内唯一の女子部員である私は、普段他の女子選手と対局することがないので、この大会は私にとって貴重な時間になると思います。一局一局を大切にたくさんのご意見を吸収していきたいです。自分の感覚と読みを信じ、勝利を目指して戦ってきたいです。

将棋部

全国高校将棋新人大会(熊本県)



1F 鈴木 麻修(県新人大会優勝)

夏に続いて全国の舞台に挑戦できることを嬉しく思っています。今回はよりハイレベルな個人戦に挑みます。夏の団体戦の全国大会で痛感した実力不足を補うために、この半年、より力を入れて研究してきました。勝利にこだわって諦めず指すことができたことが大きな自信になりました。夏よりも厳しい戦いが待ち受けていると思いますが、支えてくださった方々への感謝を胸に、自分の粘り強い持ち味を存分に発揮し、一局でも多く勝利を掴み取りたいと思います。

2E 前田 はるひ(県新人大会優勝)

全国大会は自分を成長させてくれる場であると思います。普段の部活動や県大会とは比べものにはならないくらい大勢の人が集まり、その中で将棋を指せるというのは、めったにない貴重な経験です。私は今までの全国大会で強い選手から戦術のみならず、本当に多くのことを学ばせてもらいました。だから今回の大会でも、いろんなことを学んでくることができたらいいなと思います。そして学ぶだけではなく、今まで学んできたことを生かして勝利につなげるということも頑張りたいです。私は個人戦で予選突破を果たしたことがありません。だから今回の大会では、それを果たせるように、日頃の部活動から大会を意識した対局をして、県大会の時より成長した自分で臨めるように頑張りたいです。

2D 田路 円香(県新人大会2位)

日頃の部活動にしっかり取り組み、全国大会では楽しんでベストをつくり、いろいろなことを学んできたと思います。この大会に行くことができるのは、顧問の先生、部員、両親等々、多くの力ある方々に恵まれたからだと思っています。未熟ではありますが、今からできることをやり、悔いのないようにしたいです。

2D 中村 輝夜(県新人大会3位)

私にとって初めての全国大会になるので、とても緊張しています。まだ、自分にはそこまでの実力が備わっているわけではないという気持ちもあります。今回の大会では、勝っても負けてもこれからの自分にとって糧になるような将棋を指すことを目標としています。引退までの時間が短くなっています。一つの対局、最後の一手までも、自分に吸収していき、納得のいく結果を出していきたいです。

卒業おめでとう

A組 担任 有賀 智秀

世の中には素敵な人、素晴らしいことは沢山あります。出会いを大切にして、豊かな人生になるように祈っています。



B組 担任 中村 健一

高台から望む街並みに心を休め、伸びやかに広がる谷を見晴らかして夢を語ってきた皆さん。青春の原風景となったこの学び舎と先人達に感謝し、連綿と思いを継いで行って下さい。



C組 担任 笠原 敏彦

人生は長い。人の可能性は計り知れない。自分を信じて自分を生かすべく大きく羽ばたいて下さい。





D組 担任 氣賀澤 和美



綱引きの強いクラスでした。人生、何が、どのように左右するか誰にも分かりません。とにかく、前を向いて進み続けてください。

E組 担任 田中 千秋

「一期一会」これから皆さんが会う人々は、きっとかけがえのない人々であるはず。素晴らしい出会いが皆さんを待っています。

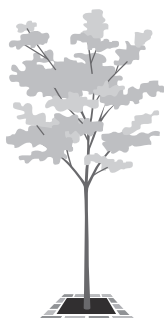


F組 担任 大石 英一



これからもたくさんの人達と出会い、いろいろなできごとに直面したりすると思います。こういったことがきっかけで成長していけるのではないかと思います。

あと、できる時に挑戦してみよう。たとえ目標が達成できなくても、そのほうが後悔しないし自分を成長させてくれるはず、そんなふうに思います。



graduation



KUNREI

No.137

平成28(2016)年2月

編集後記

入学式の日、自分のくじ運の無さに落胆しました。「役員を引き当てるなんて…」と。

二年後、広報副委員長に。初めての大大役でも不安でしたが、広報委員の方々・顧問の先生に力をお借りして編集活動をすることができました。このような貴重な経験ができて、本当に良かったと思います。

お忙しい中、薫嶺発行に携わっていただいたすべての皆様にご心より感謝申し上げます。

世界中で自然災害・凶悪事件・テロが起こっています。次年度は明るい話題が多くなることを願っています。

広報副委員長 齋竹 直美

編集担当

梅崎ベルナルド (1B)	小田切洋子 (3D)
春日 厚子 (1B)	岡田千都子 (2E)
小牧 明美 (1E)	(PTA副会長)
片桐 佐織 (1E)	白澤 準一 (3A)
加藤さつき (2C)	(PTA広報委員長)
田中 文明 (2C)	埋橋 元
那須 要治 (2D)	(担当職員)
松原 努 (2D)	平澤 裕二 (教頭)
塚越まつみ (3C)	
吉田真由美 (3C)	写真提供
北原 進一 (3D)	平澤写真館